ジャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(124号) 986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号 TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

振替口座 02290-6-126186 **口座名称** 阿部 -

●代表/阿部 一

●副代表/菊池せい子

信仰:福音の真理に真っ直ぐに歩む

- 大阪地方の大地震、大雨と災害が引き続いて起こっておりますが、皆さまのところは被害はございませんでしたか? 今年は例年になく早く梅雨が明け、これからは暑さが厳しくなることが予報されていますので、健康が守られてお過ごしくださるように祈ります。
- 今年も、5月中旬に植えた1坪農園の茄子やキュウリ、トマトなど6月中旬より実を付け始め、今は毎日その新鮮さで食卓を飾っています
- 私の方は、78歳の誕生日をの頃から気温の変化に体調がついて行けず、そのためなかなか仕事への取り組みへのボルテージが上がらず、月報も遅れての編集となりました。老いを感じる年齢ですので祈りに覚えていただければ感謝です。
- さて、私たちの群がどの団体にも属さないのを知って、教会の問題や人間関係での悩みを抱える方から相談を受けることも多くなって来ました。
- とも多くなって来ました。
 時々、宗教改革者として有名なルターも、聖書に「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ」(エペソ4/5)、「体は一つ、御霊は一つ、召しのもたらした望みが一つ」(同4/4)と書かれているのに、こんなにも多くの教派に教会が別れてきたことには唖然としているのではないかと考えます。
- より神の教えに忠実にという探求の中で、その重きを置く点に違いが生じ、さらに長い年月の間にそのグループの組織や伝統に教会が拘束されて来てのではないかと感じます。
- 福音の真理を真っ直ぐに見つめていないと、いとも容易くこの世の価値観や支配が入り込んでしまうということは歴史が明らかにしていることです。
- ピラトの官邸でイエスを3度否み、復活のイエスに出会って新しい歩みを始めて、ベンテコステの日にあの素晴らしいメッセージをしたペテロさえも、アンテオケにおいてパウロから面と向かって非難されました。
- それは、パウロの説く「神の救い」を得るために、先ず割礼を受け選民としてのユダヤ人にならなければならないと出張するユダヤ人クリスチャンたちがその場に来ていることを知って、その「空気を読んだ」ためでした。
- 組織には、それを守る事が目的となると陥る2つの危険があります。リーダーの支配とメンバーのお任せ主義です。 両者 共に聖書の教えに反するものです。
- 自分の意見を通すために、「聖霊の導き」とか「神の召命」のことばを水戸黄門の紋所の如く用いて、ごり押しする姿を教会や教団の会議の中で見てきました。さらにそれが福音の真理に一致するかどうかをを識別せずに、互いの関係を優先し問題を吟味すること無く避ける姿も。
- 福音の真理以外の小さな違いに捕らわれて、隔ての壁を作り、「多くのキリスト教」があるような印象を与えているキリスト教界の現状を真剣に問う時だと思わされます。
- 違いを認めながらも各教会の関係の中にも愛の交わりが日常的にも表されることこそキリストのみ姿が現されるこの世に対する大きな証しではないかと祈りながら思うのです。

■ 先月の多くの恵みから

- 6/1には神保秀紀・幸さんご夫妻が、6/2に女川で先の大戦で撃沈された祖父グレー大尉の慰霊碑を訪ねて来られたカナダの方とその友人3をお連れし、三浦正行先生がお父様、神田さん共に教会に寄って下さり、楽しい交わりが出来ました。
- ❷ 6/24に東和英和女学院大学院の山田牧子さんから研究論 文作成のために震災時の取り組みについて調査を受けました。



- **6**/3には震災時に通訳奉仕とともに被災者の支援をして下さったアメリカの大学で日本語を教えておられる Narita Ritsuko Lason姉が御主人、2歳になられてお嬢さんと礼拝に参加して下さいました。
- ④ 6/7に宮城教会(大原師)で3.11追悼記念会準備委員会が開かれ、3/9にメイン集会を東松島で、3/11に女川での追悼コンサートの計画のために話し合いが持たれました。経済的な必要のためにお祈り下さい。
- 6/20-24にわたり、今年も斎藤直江さんがゴスペルクワイヤと共に女川と石巻の教会や復興住宅で被災者支援コンサートをして下さいました。
- ⑥ コーカス・ツアーでノアの方舟で有名なアララト山を望む教会前でバスを降りる際にDr.木下夫人恵美子姉は足を骨折されて心配しました。1ヶ月の入院を経て退院されず、6/26に石巻までお出でになり7/1の礼拝に参加して下さいました。
- 7/22には、私たちの群のメンターをお願いしているSBS校長の森谷正志師が礼拝奉仕をして下さいます。
- **③** 7/15に東松島コミュニティセンターでGong Minが開催して下さる「The Bridge Concert with Big Band」の祝福のためにお祈り下さい。
- 9 6月も献金、献品、手紙、メイルで小さな群を励まし支えて 頂き心から感謝いたします。

■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

① ガンと闘っている今野かつ子さん、二平幸子さん、手術後の千葉 真理子姉/藤井 斉兄と骨折した木下恵美子夫人の完全な回復のため に。② 地域より求道者が起こされるように。③石巻市民の救いの ために ④平塚さんのために。⑥ 7/15のコンサートのために

群の定期集会

・礼拝(毎週日曜日) 10:00-11:30

・祈り会(毎週水曜日) 10:00-11:30・聖書を読む会(第1火曜日) 10:30-12:00

・ほっと・Time (第3火曜日)・コーラス「花」(第2.4木曜日)13:30-15:00

・コーラス「花」(第2,4木曜日) 13:30-15:00・楽しい手芸(第2,4月曜日) 10:00-12:00

・学習支援(地域の子どもの要望に応えて)

信仰を詠う

7月 がんとの戦いの中で

わが腕を指でなぞりて確認し 若きナースは採血はじむ がん術後十五年経ても残りしか 骨を蝕むがんの巣疎ら

触診の手をとめ主治医の「よし」という その一言に命をつなぐ



今野かつ子

今月は、石巻の短歌会「ひたかみ」で200回の記念誌の編集もされた今野さんに短歌をお願いしました。がんの傷みと闘いながらがら、熱心に礼拝に参加して下さっていいます。こまなる元表がり下さい。

5 月末から 6 月末までに来訪された先生・兄姉/「祈りの家」の地区教会活動との関わり



アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在りの意

信仰の歩みの中で

「赦しについて」の教会合同学び会

石巻祈りの家代表

阿部一

この4月から月1回、石巻オアシス教会に市内の教会員が集まり 合同の勉強会がスタートした。大震災の支援活動を通して石巻地 区には、宣教活動をしている群が既存の教会を含めて24ある。そ の中には、新しく教会堂を建築して活動している群や様々な支援 活動を通して福音宣教活動をしている群もある。

震災支援活動を支えてくれたサマリタンズ・パースのスタッフ スティーブン・中橋兄(現/石巻クリスチャン・センター責任者) が中心となって教会間の働きを共有し、祈り支え合う目的でIMN

(石巻ミニストリー・ネットワーク) が立ち上 げられ、現在も月1回の集まりがもたれている。 この集まりを通して、ボランティアの情報を共 有し、各教会でのイベントに協力し合っている。 さらにそこから、毎週土曜日8時より、震災地区 の住民の救いと各教会の働きのために石巻地区 全体を展望できるトヤケ森山山頂に牧師・信徒 が集まり祈り合う「**馬っ子山早天祈祷会**」が生 まれている。さらに、東松島から気仙沼に至る 太平洋沿岸地区で奉仕している教会がビッグ・ アーチストの協力を得て「宮城三陸3.11東日本 大震災追悼記念会」が持たれるようになった。

震災7年を経て、そのような集まりの中で、支援のイベントだ けでなく、牧師と信徒が一緒になって信仰について学び合うこと を求める声が上がった。神がそのために備えて下さったように無 牧だった石巻栄光教会に東北ヘルプ事務局長で東北学院大でも教 鞭をとられている川上直哉師が赴任された。そして、この学びを 指導していただけることになった。

先生は、超多忙な中で参加者がただ聴くだけでなく、後で自分で も学び直せるようにとこの学びのために毎回その日の主題に関し てテキストを作成して下さっている。

「赦しについて」が継続しての主題であるが、その取り上げ方は 聖書を基とし、多角的な視点で他面的、かつ具体的な出来事を通し てこの「赦し」についての問題を解説して下さり、また私たち自身

がその問題にどう取り組むかを問い、話し合いが持たれている。

4月の第1回目では、東北学院大の佐々木勝彦氏の教科教育研究 ノート「**ゆるしとは何か**」をベースにして「ゆるし」の学びについ ての全体的な見方・考え方について教えていただいた。

この学び会は、水曜日の10時から行われることになったが、その 時間は私たちの群では定例の「祈り会」の時間である。この問題 を会員に相談したところ、私たちも一緒に学びたいと一致したの で第2回からは会員全員がこの学び会に参加することになり、み なさんはとても刺激的で、視野が広げられると喜んでいる。

5月の第2回目は「**ゆるすこと、祝福すること**」という題で、ペテ ロ第一の手紙3/8-18とローマ人への手紙12/17-21をベースに、イ ンドネシアのスラバヤで起こった14名が死亡、40人を越える負傷 者が出た教会爆破事件直後に母親を失った息子のクルニアント君 が家族と共に「ゆるし」の宣言したこと、そして世界改革教会共同 体の「祈りと連帯の呼びかけ」(その中でのゆるしと、異なる宗 教間の平和と和解を提案)、アメリカでの人種差別とヘイト・ク ライムの問題、イギリスのウィリアム王子結婚式における黒人の

> アメリカ聖公会マイケル・カリー総裁主教の説 教を通して、差別に潜む怒りと和解の問題を考 えました。

6月の第3回は、創世記17/1、マタイの福音 書5/43-58、ローマ人への手紙5/1-11、テモテ 第二の手紙1/3-7、ヘブル人への手紙6/1-12を ベースにしながらラッシュ・W・ドーアJr. 著の 「人はなぜ『憎む』のか」の第3章の内容を紹介 され、私たちの生まれながらに持つ危険回避の ための生存本能である即座に判別する「われら vs かれら」の区分(「隔ての壁」の持つ赦しに

おける大きな障害について考えた。

さらに、日本の豊臣-徳川時代の「キリシタン殉教」や「バテレン 追放」の原因となったと今まで言い伝えられてきた「キリシタン禁 令」に関して新たな歴史的事実の解明がなされてきていることを学 び、物事の一面からの判断の危険を学んだ。さらにそれを遡ると宗 教改革後のプロテスタントに抗するためのカトリック宣教とスペイ ンとポルトガルの世界制覇に関して結んだ地球を2分する2つの条 約にまで至ることを知った。その歴史の中には宗教の持つ大きな落 とし穴があり、現代の私たちクリスチャンや教会も目標と手段の乖 離に、聖書の本質から離れること無くしっかりと身を低くして神が 本当に望まれていることは何かを学び続けなければならないことを 学び合った。教会間でこのような学びが推進されるならば、互いに 違いを認め合って協力出来る力となるはずである。

